



2019年10月31日

各 位

会社名 富士興産株式会社  
代表者名 代表取締役社長 保谷 尚登  
(コード番号 5009 東証一部)  
問合せ先 取締役執行役員経理部長 松崎 博文  
(TEL. 03-6859-2050)

## 2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2019年5月15日に公表した2020年3月期第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)の業績予想値と、本日公表の第2四半期連結累計期間の実績値において下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 2020年3月期第2四半期連結累計期間業績予想との差異(2019年4月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	26,000	100	130	100	11.97
実績値(B)	24,903	125	176	126	15.24
増減額(B-A)	△1,096	25	46	26	
増減率(%)	△4.2	25.9	35.6	26.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	26,564	122	165	116	13.38

#### 2. 差異の理由

当第2四半期累計期間におきましては、当社グループのコア事業である石油事業の業績は、在庫影響による利益の減少や物流経費の増加などにより厳しい状況が続きました。一方、北海道の道央地域を営業基盤とするレンタル事業は、公共工事が増加したことなどにより好調を維持し、ホームエネルギー事業(LPG・灯油など家庭用燃料小売事業)も、採算重視の販売を更に推し進めたことにより、計画を上回る利益を上げることができました。

この結果、売上高は、石油事業の製品販売価格の低下などから、計画を若干下回ったものの、損益面では、レンタル事業・ホームエネルギー事業の増益などから、計画を上回る利益を上げることができました。

通期の業績予想につきましては、当社グループの事業は季節変動が大きく、売上高・利益ともに通期に対する第1・2四半期の占める割合が低いことから、前回公表値(2019年5月15日公表)から修正は行っていません。

以上